

令和3年度 学校自己評価システムシート (県立朝霞高等学校 定時制課程)

目指す学校像	勤労を愛し、誠実で、他の人権を尊重し、協力し合える社会性のある生徒を育成する。
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒が主体的に学習に取り組む姿勢を確立させ、基礎学力の定着を図る。 2 高校生自立支援事業等を活用して生徒の進路意識を高め、進路実現のための支援を行う。 3 生徒一人ひとりの自己肯定感を高める取組を展開する。 4 定時制の教育活動等を積極的に情報発信し、開かれた学校づくりを一層推進する。
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	2名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

学校自己評価					年度評価(令和4年2月1日現在)		
年度目標					達成度	次年度への課題と改善策	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況		
1	<ul style="list-style-type: none"> ■現状 <ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートにおいて、「授業に取り組む態度・姿勢が良くできている」という回答は58%だった。 今年度入学生では、中学校において57%が不登校経験者、22%が過年度での入学である。 ■課題 <ul style="list-style-type: none"> 生徒の基礎的な知識・技能が身についておらず、学習に対する意欲も低くなっている。学業不振により進路変更に至る生徒がいる。 一方で能力が高い生徒もあり、生徒の幅広い学習状況への対応が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ■確実に基礎学力を身に付けさせるため、「分かる」授業を行い、自ら考え「主体的に学ぶ」態度を育成する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①教職員の授業力向上のため、年次研修と連携して、授業研究や相互の授業見学を行う。各教科担当が1名のため、全日制にも協力を依頼したり、外部の研修会に参加したりする。 ②生徒の状況・事情に個別に対応できるよう、学習サポーター、多文化共生推進員を効果的に活用する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①授業研究や授業見学の実施状況 <ul style="list-style-type: none"> ①学校生活についてのアンケート結果で「基礎学力が身についた」「授業は分かりやすい」と回答した割合が8割程度になったか。 ①授業に対する「態度・姿勢」について肯定的な回答の割合が8割程度になったか。 ②アンケート結果で、学習サポーターや多文化共生推進員が関わった生徒の満足度の割合が8割程度になったか。 	<ul style="list-style-type: none"> ■分かりやすい授業・外部の教育力の活用により、基礎学力を定着できた。 ①11月に初任者研修・5年経験者研修と連携して、授業研究会を実施した。全日制の教職員も参加した。 ①「基礎学力が身についた」76% 「授業は分かりやすい」82% ①「授業に取り組む態度・姿勢はよくできている」58% ②「学習サポーターが授業に参加して助かっている」68% 学習サポーターには大学生9名を採用し、1・2年生の国数英を中心に支援を行った。多文化共生推進員は年間44回来校し、2年生の対象者を個別に支援した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ■次年度へ課題 <ul style="list-style-type: none"> 授業に取り組む態度・姿勢についての回答が昨年度と同じく58%となった。できていないこととしては、授業に臨む態度に加えて、予習・復習が74%と他の項目の2倍と極めて高い。 ■改善策 <ul style="list-style-type: none"> 授業規律を意識させる指導をさらに行う。 学校以外での学習を短時間でも習慣付けるよう、学習への興味関心を高める工夫や授業改善を行う。
2	<ul style="list-style-type: none"> ■現状 <ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートでの、「自分の進路についてよく考えるようになった」との回答は65%、「進路行事に積極的に参加している」との回答は52%という結果だった。 ■課題 <ul style="list-style-type: none"> 高校卒業後の進路について、真剣に考えていない生徒が3割以上おり、全体的にも進路活動の遅れがみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■生徒の進路意識を高め、希望の進路実現を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> ①生徒の進路意識を高めるため、進路行事やホームルーム・総合的な探究の時間の内容を更に充実・改善する。 ②個別の進路面談を積極的に実施する。 ③高校生自立支援事業の活用や就職支援アドバイザー等と連携して、生徒の進路支援を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> ①生徒アンケートにおいて、「自分の進路についてよく考えるようになった」との回答が8割程度になったか。 ①生徒アンケートにおいて、「進路行事に積極的に参加している」との回答が8割程度になったか。 ②③アンケート結果で、進路支援(個別面談、ソーシャルスキルトレーニング、社会体験活動、就職支援アドバイザーによる支援等)に対して「役立った」と回答した割合が8割程度になったか。 	<ul style="list-style-type: none"> ■新規の取組も行い、進路意識の向上が概ね達成できた。 ①「進路についてよく考えるようになった」71%、「進路行に積極的に参加している」71% ②③「進路行事が役立っている」79% 「自立支援事業が役立っている」71% 朝霞就職EXPO、越境×探究プロジェクトなどの新規の取組を実施できた。 自立支援事業として、1年生に特性把握面談2回、2・3年生に工場・大学見学、全学年にSSTを2回実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ■次年度へ課題 <ul style="list-style-type: none"> 「進路についてよく考えるようになった」は6ポイント、「進路行事に積極的に参加している」は20ポイントの増加であった。残りの30%の生徒について進路意識の向上を図りたい。 ■改善策 <ul style="list-style-type: none"> 今年度新たに行った取組の充実を図る。 入学から卒業までの進路活動をまとめた「進路のしおり」を導入する。
3	<ul style="list-style-type: none"> ■現状 <ul style="list-style-type: none"> 昨年度の特別指導は1件、中途退学は3名だった。 不登校経験や他校での退学、家庭環境など、多様な課題を抱え、生徒の自己肯定感が低い。 生徒アンケートでの「学校生活は充実している」との回答は85%、「学校行事、部活動へ積極的に参加した」との回答は72%であった。 ■課題 <ul style="list-style-type: none"> 生徒の自己肯定感を高める。そのため、学校行事や部活動に積極的に取り組ませる。 多様な課題を抱える生徒への支援を適時適切に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ■学校行事及び特別活動の充実により自己肯定感を更に高める。 ■個別面談や外部専門機関、出身中学校との連携を図り、適切な生徒支援を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> ①学校行事、生徒会行事の内容をより充実させる。 ②学校行事、部活動、生徒会行事への参加を積極的に働きかける。また、学校評価懇話会を実施して、学校づくりへの生徒の参画意識を高める。 	<ol style="list-style-type: none"> ①アンケート結果で、「学校生活は充実している」と回答した割合が8割程度になったか。 ②「学校行事、部活動、生徒会行事へ積極的に参加した」と回答した生徒の割合が6割程度になったか。 	<ul style="list-style-type: none"> ■学校行事や部活動への参加により、自己肯定感を高めることができた。 ①「学校生活は充実している」74% ②「学校行事には積極的に参加した」80%、「生徒会行事には積極的に参加した」76%、「部活動加入率」61%、そのうち、「部活動に積極的に参加した」70% 2月1日時点での退学者は1名のみ。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ■次年度へ課題 <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染防止対策を図りながら、工夫して行事を行ったが、内容を変更・削減せざるを得なかった。 ■改善策 <ul style="list-style-type: none"> 状況は大きく改善しないという前提で、さらに工夫を凝らし、より活動を充実させる。
		<ul style="list-style-type: none"> ■個別面談や外部専門機関、出身中学校との連携を図り、適切な生徒支援を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> ①支援が必要な生徒を早期に発見するため、個別面談の機会を設けたり、高校生自立支援事業を活用した取組を実施したりする。 ②担任や校内組織と外部専門家(生活支援課、SC、SSW等)、出身中学校との連携を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> ①適切に個別面談等を行うことができたか。 ①②悩み事があった生徒に対して、適切な支援ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ■個別面談を活用し、組織的に連携して、素早く生徒を支援することができた。 ①個人面談は5月に4日、9月当初に1日、10月に5日、実施した。必要に応じて、学期末成績について個別面談を実施した。1年生において、高校生自立支援事業特性把握面談を7月と10月に実施した。 ②SCの派遣はのべ5回、市福祉担当との連携は2件だった。 生徒からの相談には、担任・生徒指導部・管理職等が連携して対応できた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ■次年度へ課題 <ul style="list-style-type: none"> 教職員が少人数のため、生徒の相談窓口が少ない。特に女子生徒の相談が特定の教職員に集中してしまうことがある。 ■改善策 <ul style="list-style-type: none"> 担任を中心として、教科担当・部活動顧問などと連携して支援にあたる。さらに積極的に外部の組織機関を紹介し連携を図る。
4	<ul style="list-style-type: none"> ■現状 <ul style="list-style-type: none"> 今までの学校説明会等の活動により、中学生とその保護者に本校の教育内容の理解は進んで来ているが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、情報発信の機会が制限された。 ■課題 <ul style="list-style-type: none"> 現在の状況においても、定時制課程の教育活動の理解を広める。 	<ul style="list-style-type: none"> ■現在の状況を踏まえて、定時制課程の教育活動について積極的に情報発信する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①中学生やその保護者等の相談や学校見学等の希望には、随時対応する。 ②地域の中学校訪問や校外で開催される学校説明会等に参加する。 ③ホームページの更新を積極的に行い、本校の「今」を発信する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①学校見学、授業見学を希望する中学生や保護者等に適切に対応できたか。 ②中学校訪問、学校外で開催される説明会等に参加できたか。 ③ホームページの更新回数 	<ul style="list-style-type: none"> ■限られた方法ながら、本校定時制の活動・魅力を積極的に発信できた。 ①学校・授業見学対応が22件、そのうち成人が2件。 ②新型コロナウイルス感染拡大を考慮し、中学校訪問・学校外の説明会参加は控えた。 ③ホームページの更新回数について、部活動などの公開承認は101回、給食関連は毎日更新した。 学校案内を近隣中学校へ郵送した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ■次年度へ課題 <ul style="list-style-type: none"> 情報発信がHPでの情報発信と個別の学校見学・授業見学に限られてしまった。 ■改善策 <ul style="list-style-type: none"> 降夜祭(文化祭)の最後に本校グラウンドで花火を打ち上げたが、Twitterを中心に大きな反響があった。HP以外の新たな手段も取り入れ、積極的に情報発信を行っていく。

学校関係者評価	
実施日	令和4年3月 文書開催
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> ・学習面やメンタル面ともに不安を抱えたまま入学してきた生徒も多いと思うので、1・2年生を中心に学習サポーターが参加することはとても良いと思う。 ・大学生の学習サポーターはとても良い。学習内容を繰り返し何回も指導してもらえると、分からないまま終わってしまうことはないと思う。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・実際に工場や大学を見学することはとても良いと思う。他の職種にも行けるとなお良い。 ・「進路のしおり」に期待している。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で行事の開催が難しい中でのアンケートの結果は、高評価に値するのではないかと。 ・生徒の得意なことを保護者や生徒本人から聞き取り、部活動や行事・生徒会などで表現できるように指導してください。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・女子生徒の相談が特定の教職員に集中してしまうことは少々心配である。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・入学前に私自身も学校見学に参加したが、とても分かりやすく、質問もしやすかったことを覚えている。実施は難しいと思うが、志願者には有難いことだ。 ・降夜祭で打ち上げた花火はとてもよかった。若い世代にはHPよりもTwitterの方が効果があるのではないかと。 	